

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でのホームの役割を再検討し、『住み慣れた環境のもと、地域に開かれたホームを目指す』に変更し、再認識を図る。	法人の介護部門の理念を更に具体化したホームの目標を今年度新につくり事務所に掲げている。職員は「住み慣れた環境のもと、地域に開かれたホームを目指す」という目標を共有している。「今、目の前にいる利用者が何をしたいのかを考え行動する」ことに徹し支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族のご紹介で、新たなボランティアを迎え、ご利用者に好評を頂いている。以前の小学校交流の生徒達と卒業を一緒に祝い、新たな学年の子供達と交流を開始した。	複合施設全体として自治会に会費を支払い地域の一人として活動している。周辺に人家がないため日頃のおつきあいは少ないが会えば挨拶を交わしている。ボランティアの訪問も多く、フルートやアコーディオン演奏、舞踊等、見たり聞いたり楽しみが多い。開設4年目を迎え地域の方の訪問や野菜の差し入れ等も多く、夏には鈴虫を貸して下さる方もおり音色を楽しんだ。近くの小学校の児童との交流や中学生の職場体験学習も受け入れており地域に少しずつ根付いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、活動状況や生活の様子を報告し、助言を頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者からの意見や提案を会議で報告し、実現するための助言を頂いている。	複数の家族代表、区長、民生児童委員会協議会長、村担当部署職員、地域包括支援センター職員などが参加し年間5～6回を目途に開催している。利用者の状況や活動状況、計画などを報告し話し合いをしている。出された意見や要望などは職員会議で報告し、ホームの運営や支援に活かしている。議事録も詳細に記録されており、充実した会議が実施されていることが窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の報告事項や相談ごとなど協力的であり、認定調査の際にはお互いに情報の交換をし、支援にいかしている。	内容によっては役場に出向いたり、電話等で連絡を取り合っている。担当者は親身に相談にのってくれ運営推進会議にも出席し協力的である。隣接の市や町からの利用者の受け入れがあり、介護認定の更新の際にもそれぞれ認定調査員が訪れ、必要な時には家族も同席しホームから情報提供している。隣接3市町村の介護施設の連絡会には母体老人保健施設の施設長が参加しホームとして必要な情報を流していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行う事による、ご利用者への負担やリスクについて、職員で共通の認識、理解をしている。	身体拘束については職員会や委員会の中で話し合われており、全職員が正しく理解している。夜間は防犯上から施錠を行っているが日中は開錠している。リスクを回避するセンサーマットについても利用者や家族にその理由を話し同意を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな不明外傷でも見落とさず、必ず、対策、考察を実施し、ご家族への報告は全職員が対応できるように体制を整えている。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、勉強する機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面との確認を行いながら、口頭での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡や面会時に日頃の様子を伝え、行事の際は事前にご家族の承諾をいただくようにしている。	ホームへの家族の来訪は多い方で週3回、平均月1回程の方が多。来訪時や年2回の家族会で出された意見や要望を支援に反映している。家族からはホームに対しての感謝の言葉が多い。年4回のホームだよりが発行され家族との意思疎通に役立てている。外出行事についても家族に声をかけ、今年秋の善光寺への参拝に6家族が参加した。リビングにはその時のスナップ写真が掲示されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの運営に必要な委員会を継続し、法人マニュアルに準じた、ホームの手順書を作成し、全職員がいつでも閲覧できるようにした。	毎月16日の16:00から職員会議を行い意思疎通を図っており殆ど全員が参加している。職員は法人全体の委員会に必ず所属するようになっており意見やアイデアが運営に取り入れられている。「食事」、「排泄」、「入浴」、「転倒防止」、「感染症」、「行事」などの委員会で話し合いが行われ、各委員が持ち帰り、全職員に周知されている。管理者は職員からの相談や意見を持ちかけられた時にはその都度応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規とパート職員をペア制にする事により、お互いに話し合いを行い、方向性を決め、職員会議の場で中心に話し合いを進めるようにし、最後まで責任を持って実施出来るようにした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修会に参加した職員は、ホームの職員会議の場で、他の職員への報告や指導を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域のグループホームネットに引き続き参加し、お互いの情報交換をしている。他施設実習を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム見学やご家族の意向、他施設での生活の様子など事前情報をいただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学を兼ね、ご家族からの要望など時間をかけて面談している。また、希望に応じ、ご本人の様子をメールで送り情報を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな状況下になろうとも、必ず支援をする事、相談にのることをお話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当制度の利点を生かし、時には1対1でゆっくり話せる時間を作っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、どんな事でも報告しあえる信頼関係を築く努力をしている。時には、ご利用者ご自身で電話で近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者を待っているだけでなく、自宅へ帰る支援をする事で、ご近所の馴染みの方が自然と集まってくれた。今後も支援を継続する。	職員は「今、目の前にいる利用者が何をして欲しいのかを考え行動する」ことを肝に銘じている。利用者が訴えた時に「今しかない」と可能な限り迅速に対応している。利用者の要望に沿い支援し、自宅や馴染みの場所で馴染みの人々との交流を楽しんでいただいている。ホームに馴染みの美容師が来てくれたり、利用前に住んでいた近所の方や知人、職場の友人の来訪を受ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同棟や他棟の区別なく、お互いに行き来しての交流を継続している。お互いの居室でゆっくり話しをしている事が多々みられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の施設に面会に行ったり、ご家族と話をしたりと関係は継続して行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の時間の中で1対1で話しをする時間を設け、どんな事でも感じ、思いを受け止めるようにしている。	利用者の生活歴から暮らし方を知り、思いの把握に努め、ゆっくり時間をかけながら一人ひとりの利用者向き合っている。今、目の前にいる利用者が何をしたいのかを考え、利用者本位の支援に徹している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、親戚、兄弟、近所の方から、情報をいただいたり、利用経緯のある事業所や担当から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の支援方法は全職員が理解しており、同じ支援を継続できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を生かし、視点や感じ方考え方など多方面からの意見を取り入れるように改善した。管理者、計画作成者、担当、家族で話し合いを行うようにしている。	職員2人で3名の利用者を担当している。本人、家族の意向を聞き、担当者や計画作成担当者、管理者や必要な関係者と話し合い作成している。モニタリングは毎月行っている。見直しは3ヶ月毎に行い、状態が変わった時にはセンター方式のヒトキシートなどを使用し随時見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤帯の異なる職員の記録を色分けに記入する事により、ご利用者の1日の様子や時間帯が確認しやすくなった。また、ご利用者の言葉はそのまま記載するようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の今を大切に支援する為、職員間の連携をもち、柔軟に対応がとれるように支援している。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	留守宅が安全であることの確認、またそれを支えてくれているご近所への挨拶により、ホームで安心して生活できている本人の気持ちを尊重している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調変化の際は必ずご家族に連絡し相談を行っている。必要な際は事前に医療機関に情報を送ったり、時には職員が付き添う事もある。	利用前からのかかりつけ医を継続している。受診の際には家族が付き添っており、医療機関宛に情報提供書を携行していただいている。往診可能なかかりつけ医もいる。緊急の場合には家族に替わって職員が付き添うこともある。急を要する場合には隣接する老人保健施設の看護師に協力を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診、受診前など主治医の担当看護師に体調変化や内服、日頃の様子など事前に情報提供している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は職員が付き添い、状況報告を行い、地域連携室と連携し、ご利用者の経過把握に努めている。退院許可が降りた際は、本人が希望する日にホームに戻って頂く事を最優先している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思いを大切に、意思を尊重した上で、医療、家族、ホームとの話し合いの上、看取り介護を行った。事前に職員に説明し、経過や方針を確認しながら全職員が同じ気持ちで臨む事ができた。	本人の意思を尊重し病院と連携し、家族、職員で今年初めて看取りを行った。亡くなられた利用者はホームを自分の家と考えていた節が見られたという。事前に看取り介護計画書を作成し、身元引受人の了承も頂いている。常に経過や方針を再確認しながら本人の意思に沿った見送りが出来た。初めての看取りで職員に戸惑いはあったが家族からも感謝されている。他の利用者も冷静に受け止めており、影響は少なかった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の看護師の協力や指導のもと、どの職員でも対応がとれるように緊急時マニュアルを作成してある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定訓練を、消防署立会のもと実施し、指導頂いている。スプリンクラーや消火器の設備も定期的に検査を行っている。	年3回防災避難訓練を行っており、内1回は消防署立会の下、隣接老人保健施設と一緒に昼夜想定訓練を行い、2回はホーム独自で避難訓練を行っている。スプリンクラーや自動火災報知機等の設備が完備され、定期的な検査も受けており不測の事態に向けて万全の対策が取られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に基き、尊厳を守る大切さや常日頃の自身の言葉掛けが適切であるか、振り返りを行うようにしている。気が付いた事は、会議の場で報告できる時間をつくっている。	利用者には「さん」付けで声がけている。人生の先輩として尊敬の気持ちを持って支援している。言葉使いも丁寧であり、プライバシーを損ねないようにトイレ誘導も小声でお誘いしている。ゆっくりと時間をかけ優しく笑顔で接しておりケアの質の高さを感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が直接訴えられない時などは、ご家族からお話を伺ったり、ご本人から本心が聞けるように、信頼関係を築く努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣やリズムを大切に、継続できる支援を行い、職員間での情報共有を徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容から、洋服選びを自身で行える支援をしている。誰がみても不快に感じない、その人らしいおしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を取り入れ、ご利用者に目、鼻で感じ、手に取りさわってもらい、一緒にメニューを考えている、なるべく当日に食して頂くよう、ご利用者中心に進めている。	食事は隣接老人保健施設の厨房から届くが、訪問調査当日の昼食の主食であるコネツケを利用者が出来る範囲で参加し職員と作っていただいた。懐かしい手作りの食事は昔を思い出させ利用者の皆さんも完食されていた。献立のバランスも良く、利用者が食べやすいように工夫が加えられていた。職員と会話をしながら和やかな雰囲気の中で摂る食事は利用者の楽しみともなっている。食器片付けは出来る利用者が職員と一緒にやっている。近くの蕎麦処へ外食に出掛けることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日トータルの食事量や水分が摂取出来ない時は、チェック表で職員間の情報共有は行っている。また、調理方法を変えたり、他の物で代用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはご利用者の状況に応じて支援している。		

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを知り得た上で、継続していただける支援を心がけている。布から紙パンツに切り替えた方はおらず、立位、座位が可能であれば、トイレでの排泄を優先している。	職員は一人ひとりの排泄パターンを熟知しており、トイレでの排泄を促している。利用者の個々の状態に合わせ、ポータブルトイレを居室に置き使用できるようにするなど自立に近付けるような支援も行っている。誘導の声掛けも小声で行い、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の軽運動を取り入れ、水分摂取や食物繊維の多い食品のおやつ作りなどで工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日の中で時間を問わず、希望のある時は入浴できるようにしている。また、ご利用者同士で入浴したりとご利用者同士の時間を大切にしている。	基本的には午後入浴となっているが、希望があったり必要な場合は午前中に入浴している。かけ流しの温泉で利用者二人でゆっくり入れるスペースもあり仲の良い利用者同士で入浴する時もある。温泉であるが無色無臭であるので柚子湯、菖蒲湯も行っている。嫌いな方にはタイミングをみて何度も声がけをしている。また、特殊浴槽での入浴が必要になった場合には母体でもある隣接老人保健施設の浴槽を利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の状態や状況に応じて、安心して休める場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の介助方法は違っているが、服薬には時間をかけ、職員は何人かで確認を行っている。誤薬、飲み忘れの防止は全職員で統一した方法で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や趣味はそのまま継続して頂く配慮と、1日の中で必ず1回はその方にあった役割を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度、善光寺参拝を計画し、10月上旬に実施予定している。ご家族からはご理解をいただいております。同行していただける家族には一緒に参加していただく。	今年は善光寺に参拝に出掛け、外食も楽しんだ。家族にも声をかけ一緒に参加していただいた。日常的な外出は敷地内を散歩する程度であるが、近くの足湯に出掛けることもある。年間行事計画があり、お花見や紅葉狩りなどの外出を楽しまれている。個々の状態により外出支援を行っている。	

認知症対応型共同生活介護施設グループホーム朝日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族に許可を頂き、事務所の金庫で管理している。買い物、外食などで必要な際は、事前にご家族に許可をいただいている。ご本人にはいつでも確認できるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をいれ、話しをしたり、写真と本人直筆の手紙を送ったりを行っている。本年度は年賀状を送付し、ご家族から返信があり、壁に貼り大切にしているご利用者の様子があつた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に季節を感じる工夫を取り入れ、室内には思い出の写真を掲示し、ご利用者間のコミュニケーションの1つになっている。外気浴が楽しみになる整備をした事で、ご利用者同士声を掛け合い、誘いあう事が多くなった。	木造の建物で中央に事務室があり左右に鳥が羽ばたくような感じで「いちい」「さくら」の両ユニットが配置されている。それぞれのユニットに入るとキッチンと食堂兼居間があり利用者はここで日中を過ごされている。車椅子が通れる廊下は歩行訓練に最適でリハビリに使用出来る。玄関にはスキで作られた飾りや作品が置かれ、玄関先には菊や秋の花が咲き誇り癒される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	棟内の行き来は自由にし、いつでもどこでも過ごせるようにしている。TVも見たい棟に行き自由なみで楽しんでいる様子が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が危険がなく、安全、安心に過ごしていただく居室の環境づくりを、ご本人、ご家族、職員で情報共有しながら行っている。	全居室床暖房とエアコン、空気清浄器、クローゼット、洗面台が備え付けられている。家族の写真が飾られた居室、お仏壇に御主人の位牌が置かれ供養されている居室、多くの衣服が回転する衣服掛けにかけられその中から利用者が選べるようになっている居室等、それぞれの利用前の暮らしぶりを大切にし、利用者の住み易い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備品の置き場所を固定し、ご利用者にわかりやすいよう設置したことにより、共用品はご自身で用意できるように支援している。		